

米国で裁かれるホンジュラス前大統領 —麻薬密輸有罪判決が国内政治に与える影響

Honduran Ex-President's Trial in the United States:
His Guilt in Drug Trafficking and Its Impacts on National Politics

中原 篤史
NAKAHARA, Atsushi

要約:

中南米各国の政治腐敗を語るうえで、犯罪組織との関係を切り離すことはできない。ホンジュラスも例外ではなく、以前より麻薬密輸組織との癒着疑惑が持たれていた前大統領が米国の司法の場で裁かれ有罪となった。この問題も同様に、近年の歴代政権、司法、立法各府のなかに構造的に入り込んでいる問題である。実際に今回の裁判でも、検察側証人が歴代大統領を含めた政府高官、民間企業などの麻薬密輸関与を証言している。米国司法の追及はこれからも続くが、今後、カストロ政権と米国との関係や来年に選挙を控えたホンジュラス政治に少なからず影響を与えることが予想される。

キーワード：ホンジュラス、エルナンデス（前大統領）、セラヤ（元大統領）、選択的正義、麻薬密輸

はじめに

米国ニューヨーク南部地区連邦地裁（以下、連邦地裁）で行われていたホンジュラス前大統領（2014～22年）エルナンデス（Juan Orlando Hernández）被告に対する、米国への麻薬密輸共謀など3件について争われた裁判は、2024年3月8日にすべて有罪の評決が出された。後述するが大統領の意向に沿う人物が司法の要職を占め、また、与野党問わず腐敗がはびこる国内では犯罪組織との関与疑惑のある政治家が司直の手に落ちることはまれである。一方で、国内の薬物問題の対策を強化する米国は、違法薬物の米国への密輸共謀や実行で起訴し、犯罪人引渡し条約に基づいて中南米各国に容疑者の引き渡しを要求している。

2019年に、当時現役国会議員だった実弟のアントニオ・エルナンデス（Antonio Henández）が米国に渡航した際に空港で米司法当局に拘束され、麻薬・武器の密輸共謀などにより有罪の評決を受けて服役中である。そのアントニオの裁判に出廷した検察側証人の多くが、今回も検察側証人として出廷し、エルナンデスを含めた直近の歴代大統領をはじめとした有力政治家や国軍、警察などの麻薬組織との関係について証言した。それだけでは済まず、現政権のカストロ（Xiomala Castro）大統領の夫で同大統領顧問のセラヤ（Manuel Zelaya）元大統領（2006～09年）とその兄弟についても言及され、国内で大きく報じられた。こうした証言は、結審後もホンジュラス政界・経済界を揺るがす問題であり続けることは間違いない。

南米から密輸される違法薬物は中米で乗せ換えられたのち、多くは陸路を北上して米国に向かう。つまり、経由地となる各国では程度の差こそあれ同じような状況である。本稿ではこうした腐敗国家の一例としてホンジュラスを取り上げて今回の裁判を概観し、今後のホンジュラス政治への影響を考える。

1. 米司法省によるエルナンデス前大統領に対する引き渡し要請と公判

2022年1月27日のエルナンデス大統領退任と同日、米国連邦地裁では検察が彼に対する起訴状を提出した。容疑は、国内外の麻薬密輸組織と共謀し、少なくとも2004年から2022年にかけて、コカイン500トンを超えて米国に密輸し、多額の不正蓄財、賄賂を得たことであり、罪としては米国内に持ち込むことを意図した違法薬物の製造、違法薬物の密輸共謀、そのための銃器・重火器の準備の共謀と、実際の所持である¹。共謀罪は複数人が、米国に対しての犯罪を計画して、そのうちの一人でもそれを準備すれば成立する犯罪であり、実行しなくても罪に問える。そのため理論的には物的証拠がなくても証言のみで有罪に持ち込むことが可能である。日本でも同様の法律が通称「テロ等準備罪」として2017年に国会で成立している²。

¹ "UNITED STATES OF AMERICA vs JUAN ORLANDO HERNANDEZ; Case 1:15-cr-00379-PKC Document 423 Superseding Indictment." *The United States District Court Southern District of New York*, January 27, 2022.

² 正式には「テロリズム集団その他の組織的犯罪集団による実行準備行為を伴う重大犯罪遂行の計画」。

2月14日、米司法省は犯罪人引渡し協定に基づき、国務省を通じてホンジュラス政府に対して正式に同前大統領の引き渡し要請を行った。これを受けてホンジュラス最高裁は翌15日に予防拘禁のかたちでエルナンデス前大統領に対する逮捕状を出した。サビヨン（Ramón Sabillón）治安大臣が自ら前大統領の自宅に赴き逮捕し、前大統領は拘置施設に留置された。サビヨン大臣は、エルナンデス政権時代の警察長官であったが、エルナンデスの共犯者をエルナンデスの許可なく摘発したため怒りを買って更迭された因縁の人物である。

2024年2月20日に始まった米国連邦地裁の公判で検察側は、2005年大統領選で自身が所属する国民党候補が敗れて以降、エルナンデスが姉弟と共謀し、次期選挙勝利に向けて資金を得るため違法活動を活発化させたこと、とくに2006年以降自身の国会議員と国会議長（各1期で計8年）、大統領（2期8年）の任期中にその地位を利用して、コカイン密輸時の国内通過庇護と引換えに国内外の複数の犯罪組織から賄賂を受け取っていたと主張した。2009年の国会議員選挙でエルナンデスは再選されて国会議長になったが、国民党は過半数を得ることができなかった。

そのため野党の自由党議員も買収し、国会議長として議会運営に強い影響力を行使した。その地位を利用し、国会の承認が必要な政府要職に違法活動のキーパーソンを就かせた。大統領就任以降も活動をエスカレートさせていき、自らの麻薬密輸ネットワークを構築するにいたったとされる。同時に米国検察は、麻薬密輸組織が選挙のたびに与野党問わず有力な大統領候補に資金を提供していたことを指摘している。とくにエルナンデスに関しては、違法行為で得た資金で票を買収するなど、2013年、2017年の選挙は不正選挙であったと断罪した。

エルナンデス・ルートの麻薬密輸疑惑の裁判では、米国に引き渡された被告は全員有罪になっている。米国検察は約20年かけて捜査し、また逮捕した麻薬密輸人と司法取引に持ち込み、証言、証拠品など圧倒的な裏付けを持っていた。エルナンデス側は一貫して無実を訴えたものの結果は明らかであった。量刑言い渡しは2024年6月26日に予定されている。

2. 裁判がホンジュラス国内政治に与える影響

(1) 結束力が弱まる国民党

今回の裁判について、国民党は党の組織的関与を否定している。しかし、いまだエルナンデスの犯罪への関与疑惑のある政治家、政府高官、軍、警察幹部らは無処罰にあるため、メディアは同党や検察への批判を強めた。

党執行部には、まだ党首チャベス（David Chávez）をはじめエルナンデスに近い人物が名前を連ねており、エルナンデス派の影響力が残っている。2013年のエルナンデス大統領就任以降国民党は、麻薬や汚職で得た莫大な資金を背景にエルナンデス中心の党へと変革したといわれている。

しかし、エルナンデスに有罪判決が出たことで、国民党批判の高まりとともに、一部国民党政治家の間にも変化の兆しが表れている。主流派は、エルナンデスとの距離を置こうとする大統領選候補者と党首チャベスの間で分裂状態である。非主流派からは、前回選挙で国民党最多得票当選の議員が大統領選への予備選出馬を明言した。また、エルナンデスの妻アナの立候補や、伝統的な

国民党主流派であったカジェハス元大統領の甥が新政党から出馬することを表明している。このように、国民党は伝統的に結束力が固い政党といわれていたが、前回選挙以降、党内がまとまらず分裂状態に陥っている。

(2) リブレ党セラージャ兄弟に対する疑惑の再燃

エルナンデスに対する米国での公判のなかでは、検察側証人から、セラージャ元大統領や彼の実弟カルロスが、犯罪組織から麻薬密輸の庇護の見返りに多額の現金を受け取っていた旨の証言も出た。セラージャ兄弟はそれを全面否定したが、彼らこそエルナンデス以前から疑惑が取りざたされていた。

2019年にホンジュラスのメディアは米国検察の資料を報じ、犯罪組織の首領エクトル・フェルナンデスが「2006年に大統領になった人物」に対して2005年の選挙期間中、麻薬密輸庇護と見返りに50万ドルを渡したと証言していることなどを明らかにした³。

また、リブレ党カストロ大統領は、2022年の就任当初、政権の目玉のひとりとしてサビヨン元警察長官を治安大臣に任命したが、わずか1年で更迭した。それについて、サビヨン治安大臣がセラージャの許可なく政治家や麻薬組織を摘発し、米国に引き渡したことでセラージャの怒りを買ったことが本当の更迭理由だと、親リブレ党のメディアやXポストでジャーナリストらがほのめかした⁴。引き渡されたうちのひとり、2024年9月8日から米国で公判が予定されているオケリ（Midence Oquelí）元自由党国会議員である。オケリの公判が始まるということは、国民党エルナンデスとは異なる麻薬政治家ルートに対する米司法の追及が始まる可能性を示唆している。オケリについては、2004年から2014年にかけて犯罪組織ロス・カチーロスと共謀していたが、2005年に当時自由党大統領候補のセラージャに賄賂を渡したことや、オケリが別の国会議員を通じてセラージャの大統領就任時に、オケリを治安大臣に任命させ、麻薬密輸を庇護することに加えて、警察情報を麻薬組織に漏洩しようとして謀議していたことが、過去の米国の別の公判で証言されている。オケリは、減刑を望んで有罪を認め、検察と司法取引をするといわれている。

3. 米国のメッセージや国内世論に政権与党がどう対応するのか

エルナンデス前大統領が米国に引き渡されて以降も、ホンジュラスでは毎日のように麻薬密輸、コカイン畑・精製工場の摘発の報道があり、麻薬犯罪問題は改善していない。今回の裁判の証言からも明らかになったように、多くの政府職員・政治家など協力者の関与なしに麻薬の密輸を企てるのは困難である⁵。

それを裏打ちするように、米国でのホンジュラス人の麻薬関連裁判では、司法取引をした多くの被告が、ホンジュラス国内の麻薬取引における、経済界のマネーロンダリング、便宜を図る政

³ “Don H pagó \$2 millones al presidente de Honduras de 2006.” *La Prensa*, 29 de julio, 2019.

⁴ *Thelma Mejia Lopez X*, June 21, 2023.

⁵ 空港・港湾・国境（入管、税関）関係者、国軍・検察・警察（レーダー、パトロール、検問・捜査情報）、外務省（偽旅券・査証）、移民局（偽滞在許可）、民間企業・銀行（不動産、輸送、資金洗浄）など。

治家、裁判所、検察、軍、警察関係者の関与を告白してきた。それにもかかわらず、ホンジュラス司法当局に捕まったものはほとんどいない。そこには権力者の意向を受けて、司法が恣意的に「誰（何）を捜査するのか」を決める「選択的正義」（Justicia Selectiva）の問題がある。また、米国側も、両国間の外交軋轢にならないよう配慮し、他国の政治家・官僚への刑事訴追には慎重な対応である。

その一方で、カストロ大統領を操る夫のセラヤ元大統領の影響力は増大しつつある。カストロ政権のネポティズム（縁故主義）が指摘されるなかで、2023年2月の国会での最高裁判事選出では、長官に大統領の親戚が選ばれた。また2024年2月28日には、セラヤに近い国会議長が突然、検察庁、会計検査院などの要職人事の承認採決を強行し、最大野党国民党の協力を得て承認にこぎつけた。それら要職の多くはリブレ党系の人材が就いた。

今回の米国におけるエルナンデス元大統領に対する裁判では、ホンジュラス検察も招待を受けて検察官が傍聴した。そのこと自体、米国からホンジュラス検察への麻薬汚職対策強化と無処罰問題に対するメッセージともとれる。起訴事実は、おもに2004年以降の麻薬密輸についての容疑であり、証人からは、麻薬組織の政治への浸透と選挙期間中の金銭授受の証言が出ている。米国の検察は2005年の選挙についても腐敗選挙とみなしており、過去の二大政党当時の国民党ロゴ、自由党セラヤ両候補（元大統領）に対しても米国司法では、起訴が可能なほどの有力な証言を得ている。

米国はホンジュラスに対して、法の支配や腐敗のないガバナンスを中心とした民主主義の尊重と安定を求めている。一方、疑惑のあるセラヤ元大統領が三権への影響力を強めるなかで、セラヤの妻である現カストロ大統領とホンジュラス司法が米国からのメッセージをどう受け止めるか、また、来年の選挙の大きな争点になるであろう政治腐敗撲滅や汚職・無処罰対策への国民の期待についてどう対応するか、今後の政権運営が注目される。

(2024年3月28日記)

[付記]

2024年6月26日、連邦地裁はエルナンデス前大統領に対し、禁錮45年などを言い渡したが、検察、弁護側双方が控訴すると報じられている。

(なかはら・あつし／ホンジュラス国立フランシスコ・モラサン教育大学)

Honduran Ex-President's Trial in the United States: His Guilt in Drug Trafficking and Its Impacts on National Politics

NAKAHARA, Atsushi

Abstract

As for political corruption in Latin America, it is reported that the collusion between politicians and criminal organizations is an urgent issue in the region. Honduras is no exception, with a former president convicted in federal court in the United States of importing cocaine and related firearms offenses. This case is also a problem that has been structurally embedded in the executive, judicial and legislative branches of the recent government. Indeed, prosecution witnesses in this trial have testified about the involvement of government officials, including former presidents, and private companies in drug trafficking.

U.S. prosecutors continue to pursue corruption in Honduras, which is expected to have a significant impact on diplomatic relations between the current government and the U.S., as well as on Honduran politics, which is scheduled to hold elections next year.

Keywords

Honduras, Hernández (previous president), Zelaya (former president), selective justice, drug smuggling